

編集後記

『創価教育』第16号は、第1回世界市民教育シンポジウムの特集号である。2022年10月22日から23日にかけて創価大学で開催された同シンポジウムは、創価大学創立50周年記念事業の掉尾を飾るものであり、25カ国・地域から約170名の参加があった。“Restoring Learning to Daily Living: Global Citizenship and John Dewey”をテーマに掲げ、基調講演のほか、9つの分科会における計29本の発表、また6名によるポスター発表が行われている。シンポジウム開催の趣旨については、開幕式での鈴木将史学長のあいさつを本号に収録したので、ご参照いただきたい。

本号にはまず、創立者よりシンポジウムに寄せられたメッセージを掲載することができた。次に、シンポジウムの基調講演4本を掲載している。分科会については、“Thought Formation of John Dewey: Japanese Perspective”と、“Reading Dewey’s Letters from China and Japan”の両分科会の発表をご寄稿いただいた。その他の分科会からも4本の発表を収録している。シンポジウムでの発表者、ご寄稿いただいた皆様に心より感謝申し上げたい。

特集以外の内容は以下の通りである。まず論文として、岩木勇作氏による「治安維持法下における思想犯転向輔導施策への牧口常三郎の対応に関する研究——牧口常三郎の「赤化青年の完全転向は如何にして可能なるか」を読み解く——」を掲載した。これは、当研究所の研究会での発表と議論をもとにまとめられた論考である。なお、この論文で取り上げられた「赤化青年の完全転向は如何にして可能なるか」の全文を資料紹介として収録したので、あわせて参照されたい。

次に、2022年に行われた講演の中から1本を掲載した。成田和信氏の「なぜ言論の自由は必要か — J. S. ミルの『自由論』を読んで」は、6月27日に行われた研究所主催講演会の講演記録である。また、2022年夏季大学講座における講義のうち、創価教育に関連する内容を取り上げた2本を収録した。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で19回目を迎えた。2022年に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。資料紹介として、2023年1月刊行の『完本 若き日の読書』（第三文明社）に収められた創立者の「読書ノート」につき、抜書の出典を調査した成果を掲載した。さらに前号に引き続き、『創価大学50年の歴史』の編纂にあたって使用した出典資料の一覧を収録している。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2023年3月 (T.S.)